



2026

学校だより 本荘 Smile

令和7年度 第44号
令和8年3月9日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

150周年記念式典のお話。その2 式典は歴史と歴史が交差する場所でした。



この写真は、6年生の御手洗咲花さんが、記念式典で特別講演をしてくださった竜之介動物病院院長（兼九州動物学院院長）の徳田竜之介先生に、謝辞を述べている場面です。

150周年記念式典の講師をお願いに伺った際、竜之介先生は「私は本荘小の卒業生でもありませんし、申し訳ないですよ……」と遠慮がちに言われました。しかし、私は「今、本荘の地で命の大切さを世に伝え、若い人材を育てておられる先生だからこそお願いしたいのです。大事なものは、現在の本荘でともに生きている人の言葉だと思っております」と、半ば強引にお願いをしました。

確かに、記念講演は卒業生に依頼するのが通例かもしれませんが、しかし本荘小には、教育目標

「『あいうえお』いっぱいこどもの育成」があります。その「い」は「命を大事にする」です。人や動物の命のために、そして自分以外の誰かのために一生懸命にがんばっている人の代表として、竜之介先生をお願いをしたかったのです。

こころよく引き受けてくださった竜之介先生には、感謝の言葉もありません。講演も1年生から大人まで深く納得できるすばらしいお話で、まさに「過去・現在・未来」が交差する記念式典にふさわしい時間となりました。

裏面の「虫眼鏡」でも取り上げていますが、こどもたちの本荘太鼓と、その原型となった代継太鼓の皆さんによる競演も、時代のクロスオーバーを感じさせる最高の場面でした。（裏面へ）

「みんなでつくりあげる」という 150 周年記念式典のテーマ通り、こどもたちの新キャラクターランキング発表なども式典を大いに盛り上

げてくれました。

あらためて、児童、保護者の皆様、地域の皆様に心から感謝した一日となりました。（校長）

校長先生の虫眼鏡「本荘太鼓と代継太鼓の競演」

本荘太鼓によるオープニングと代継太鼓のみなさんによる演奏。150 周年式典にふさわしい由緒あるイベントとなりました。150 周年記念式典実行委員会のみなさんが代継太鼓と宮崎昌子先生を呼びたいという熱意で実現したコラボなのです。本荘校の人のつながりのすばらしさが感じられる一幕ですね。



本荘太鼓のオープニング



代継太鼓の演奏